８　忘れられた巨人

１　構成

第一部

第一章

時　場所　ローマ人がいた名残のあるイングランド

事件

斜面に深い横穴を掘って住む、六十人位の村がある。

時　場所　老人アクセル、ベアトリス

事件

息子と一緒だったころ、火の近くに住んでいたが、息子がいなくなると、どこの焚火からも遠くなった。

時　場所　今朝の霧の濃さ

事件

アクセルは集中し考えようとすると記憶はぼやけていく。

時　場所　赤毛の女

事件

村には赤毛の女がいて、治療の技を持っていて、けがや病気を治した。二人がローソクを禁止されると、彼女は気の毒だと言っていた。

時　場所　この春の朝

事件

アクセルは老いつつある、勘違いすると思う。

時　場所　二人の家　村の外縁

事件

アクセルはベアトリスの寝顔に安らぎを見、幸福感が湧き上がった。

時　場所　あの日　去年の十一月　灰色の朝

事件

黒いぼろをまとった女が村を通り過ぎた。二人は最初に旅を話題にした。

時　場所　四日間さまよう旅人

事件

悪魔扱いされる。ベアトリスは粗末な食べ物をあげる。

時　場所　旅

事件

ベアトリスは、息子の村への数日間の旅を提案する。長い間思っていたことで、これ以上延ばしたくない。息子は向こうの島で待っている。ベアトリスは望み、アクセルは反対した。

時　場所　数日

事件
　旅の話はできるだけ避ける。
時　場所　放牧地
事件
　ノラが、作ったローソクを持ってきてくれた。鍛冶屋の女房がローソクを持っているとひったくろうとした。司祭は部屋でローソクを使うことを禁じられていると取り上げる。
　アクセルはローソクはなくても二人が話ができればいいと言う。ベアトリスはあの子が作って持ってきてくれて嬉しかった。彼女は息子のことを思い出し、息子の村へ行こうとする。数日間留守にする。村も人手不足にならない。司祭には言って行く。
時　場所　息子
事件
　息子は長老ともめて出るはめになった。
時　場所　道
事件
　ベアトリスは物の交換で近くの村に何度も行っていると言う。サクソン村なら休ませてくれる。
第二章
１
時　場所　出発の準備
事件
　村の共有物（毛布、水筒、火口）は隣人と交渉し借りて行く。一員としての仕事を代わって貰う。
時　場所　出発の日
事件
　一時間歩き続けた。ベアトリスも前進を続けた。
時　場所　出発直前の数日間
事件
　ベアトリスは自信満々だった。サムソン村までなら女たちとよく行っていた。湿地や谷になり、自信が揺らいだ。
時　場所　広けた土地の道探し
事件
　現在は生け垣、畑、道、草地が分けられているが、当時はただの広がりで、磁石や地図もなく、道を間違えることがあった。一歩一歩集中して歩く。悪天候だけではない。悪鬼悪霊は最後尾を狙うのでベラトリスが前、アクセルが後ろになった。
時　場所　大平野の緑
事件

　ベアトリスは息子に会ったら同じ村に住めと言われる。アクセルは息子を思い出せない。
時　場所　巨人の埋葬物
事件
　ベアトリスはお墓を踏みつけないように道を外れて行くと言う。
時　場所　大平野
事件
　五、六歩毎に、ベアトリスがいるの？アクセルがいると掛け合いを続けた。
時　場所　森　小川
事件
　足を洗い、パンを食べ、水筒に水を入れた。
時　場所　ローマ人が残した長い道
事件
　一時間のうちに、母子三人連れ、驢馬追いの少年、旅の役者二人に会った。
時　場所　午後　中頃　オークの大木
事件
　身を隠すように休み、ベアトリスは道が曲がった所に古い屋敷があると言う。
２
時　場所　廃屋　ローマ時代の豪荘な屋敷
事件
　ローマ人の道から枝分かれした脇道で悪戦苦闘した。アクセルはブリトン人老人二人に雨宿りしたいと言う。老婆は一匹の兎をつかんでいた。男が奥へと言う。彼女はこんな所へ来る人がいて驚いたと言う。アクセルは息子の村へ行く、サクソン人の村に泊めて貰うと言う。
時　場所　船頭の話
事件
　男は船頭で、休日をここで過ごす、この人は兎を殺し血を流し汚すと言う。この婆さんを立ち去らせてくれと言う。
時　場所　婆さんの話
事件
　船頭は、夫だけ乗せて私を浜に残し、離れ離れになった。四十数年一日も離れなかった。船は一度に一人しか乗せられない。私の番の時乗せなかった。シチュー用の兎を持っている。
　船頭はあの島は一人きりで生活する所だ。一緒にいられないと分かって拒否したと言う。老婆は入り江でむごい船頭が来るなんて思いもしなかったと言う。船頭は極めて強い愛情で結ばれていれば二人一緒に渡れることもある、この二人はきずなが弱すぎたと言う。
　ベアトリスは、昔は立派な家だったか尋ねる。愛情の絆の強さを知るために、どんな質問をするか問うと、一番大切に思っている記憶を話して貰うと答える。二人の仲に恨み、怒り、

憎しみを見ることがあると言う。
３
時　場所　脇道
事件
　引き返した。慎重な足取りで歩く。
時　場所　大木の下　雨宿り
事件
　持ち物を下し幹に寄りかかる。ベアトリスは怖いと恐れる。アクセルは何の危険もない、思い出せないのでは夫婦の愛をどう説明したらいいかと言う。ベアトリスは息子の顔も、いなくなった理由も思い出せないと言う。アクセルには正体不明の恐怖心が湧き上がりつつある。ベアトリスは船頭の言葉で怖くなる。
第三章
１
時　場所　サクソン人の村　谷底に四十戸
事件
　サクソン人は閉所を嫌い解放感を優先した。ベアトリスは長老一人がブリトン人、薬のことをよく知っている女に会いたいと言う。脇腹を手で押さえ不快な感じがする。錫も持って来たと言う。
時　場所　濠　橋　門　松明
事件
　ベアトリスは長屋にまっすぐに行く。アクセルは薬師の家はまだかと聞く。
時　場所　村の広場　かがり火　小屋
事件
　背の高い女が薬師だ。ベアトリスは二人だけで話させてと頼む。女二人は家に入る。
時　場所　建物　集会所
事件
　ベアトリスは、髪の長い男は一、二時間前に来たと言う。サクソン人で東の沼沢地から来た。海からの侵入者と戦ったそうだと言う。
時　場所　群衆沸き立つ
事件
　ベアトリスは長屋までの道のりを薬師に聞く。柵に沿って歩く。二人は完全に取り囲まれていた。
時　場所　一人の老人
事件
　高齢者で権威のある一人の老人が、見張りの役目を放り出したことを叱責した。ベアトリスは恐い、アイバーだと言う。今夜はみな怖がっていると答える。わしの家に来いと誘う。

時　場所　一軒の家　大きい　離れている
事件
　ベアトリスは揺り椅子に腰を下ろす。アクセルは勇敢な男達が危険な任務についており休めると思う。アクセルが薬のことを聞くと何でもないと言われたと答える。
時　場所　東への小道　修道院
事件
　アクセルは森の道を行く予定だったが、小道に変えてもいいと言う。ベアトリスは息子の村へは森の道がいいと答える。
　アクセルが東へ向かう山道を行くと、修道院でジョナスという賢人に会えると聞いたと言うと、アイバーは会いに行くといい、道はやさしくない、クリエグの国だと言う。クリエグは雌竜のことかと聞くと、旅人を襲ったりするような噂は獣か山賊のしわざだろうと答える。
　アーサー大王からの生き残りで、退治を命じられた。老いた騎士たちがいる。霧は噂だ。
２
時　場所　アイバーの家
事件
　アクセルはベアトリスに揺すられ目を覚ました。アイバーはいい報せであることを祈ると言う。
時　場所　中央広場　かがり火
事件
　戦士はかかえて来た物を反対に持ちかえて高々と差し上げた。怪物を二匹殺し、一匹は森へ逃げた。アクセルは昨夜まで少年の安否が最大の関心事だった。
３
時　場所　翌朝　外に物音
事件
　二人はきまり悪いほど朝寝坊した。
時　場所　今朝の村　緩やか　大通り
事件
　昨夜はここは手のつけられない場所だった。村人はおとなしそうで、うなずき小声で挨拶する。アイバーは昨夜の英雄を紹介する。
時　場所　英雄ウィスタン
事件
　アイバーは悪を倒したのはこの戦士だという。ウィスタンは、勇敢な同志がいたからだ、サクソン人、グリトン人とも交わった。剣技はブリトン人に教わったと言う。
　アクセルは隣の国から来た、東にある息子のいる村へ行く、山の道を行き賢人に会うと言う。険しい上りだと言う。

時　場所　中庭　人工の小川　我鳥　長屋
事件
　アイバーは長屋まで連れて行き、朝食を出す。アクセルはウィスタンはすばらしいと称える。ベアトリスは、サクソン人の村は重荷ではないか、少年が戻り鬼も退治した、同族のもとに戻りたくないか聞くと、鬼ではない、見たこともない生き物だ、少年は戻ったが安全とは言えない、ねずみ穴に暮らした方がましだと思う。
　少年はエドウィンで体に傷がある。殺されるので小屋に閉じ込めておく、異教徒は迷信しかない、悪鬼にかまれたものは悪鬼に変わると信じている。少年を連れて行って、どこかの村で新しい人生を始めさせてくれと頼み、アイバーは去っていく。
時　場所　戸口　中庭
事件
　ベアトリスはぐずぐずするのはやめようと言う。二人は黙って食べ続けた。彼女は物忘れは神様自身のせいだ、神様が覚えてないから私達が忘れても不思議ではないと言う。
時　場所　今朝
事件
　アクセルはベアトリスが緑色のマントを着ていたと言うと、夢だ、持っていないと言う。霧がどうであれ思い出させることがあるのは救いだと言う。
５
時　場所　アイバーの家
事件
　二人は向かう。ウィスタンは話があると言う。
時　場所　その朝　現代イングランドの田舎の風景と変わらない。
事件
　ウィスタンはエドウィンをこの村から連れ出す。用事があり、東まで行けないが、山の向こうまで同道する。二人の手を借りたいと言うとアクセルは同意する。アイバーにも相談し、納屋からこっそり連れ出す。旅仲間でいられるのもよかった。
第四章
時　場所　楡の木
事件
　エドウィンは木に登り村を見る。ステッファは古強者、村でただ一人戦場を経験している。
時　場所　今朝の出来事　納屋
事件
　伯母が金切り声で毒づく。アイバーは押出した。伯母は親切から呪いに変わった。
時　場所　壁に石が投げつけられる
事件
　母は耐えられると言う。エドウィンは長老達だって、いつまでも押さえているのは無理だ

と言う。石を投げ続けられれば壊れる。
母は荷車の周りを回れと言う。何で輪を回るのか聞くと騾馬だからと答える。母は強くなっておくれ、十二才なら大人、一人で四五人分の息子になってくれと言う。
時　場所　風　楡の木揺れる　納屋
事件
　狼が来た日、隠れたのは納屋だったのか？
時　場所　脱穀小屋
事件
　村中がふるえあがって隠れた。女子供だけでなく、男も勇敢な男たちも向かわなかった。エドウィンは回り続けた強さを絞り出し、回り続けた。
時　場所　ドア開く
事件
　ウィスタンはドアを大きく開け放したまま入って来た。悪意ある人々への軽蔑の表明に思えた。傷の様子を調べた。叔父二人は勇敢だが、気分が悪くなって巣の中へ入らなかった。秘密を守るのは二人だけだ。清潔にして傷をかくなと言う。エドウィンは誰にも言ってない。みんな鬼のかみ傷と言うので悩むという。
時　場所　生き物は鴆鳥くらい　歯と釣爪で攻撃
事件
　格子にしがみつき飛びかかって来た相手を拳と腕で振り払ったため脇腹に痛みがある。小さな穴がぽつぽつ開いている。村人は鬼のかみ傷と信じたばかりに大騒ぎになった。老ステファは戦士の魂にふさわしい技を教えて貰うと言う。
第五章
１
時　場所　きつい上り　本道　橋
事件
　アクセルはクエリグが徘徊する、どんな兵士か尋ねる。ウィスタンは、ブリトン人ブレヌスの兵隊と言う。一行は二人が先に立って丸めこめ、少年が馬を引く、わたしは唖者で 白痴、私と少年は兄弟、剣とベルトは馬の荷物の底に入れる。兵隊はさいころを振っている。
２
時　場所　森から出る
事件
　ベアトリスはウィスタンに、一目見て戦士と分かる、ちょこちょこ歩けと注意する。アクセルは兵隊は誰か別人を待っていると言う。通してくれ、農夫で息子の村へ向かう、預かることになった兄弟だと言う。ウィスタンはけたけた笑い悲鳴を上げた。
　ずんぐりした兵士はウィスタンを痛めつけたがようやく放し、橋の上に戻った。灰色の髪の兵士は、馬の歩き方がおかしい、怪しいものを見かけなかったかいちいちうるさく聞く。

二人が答えると脇によけ道をあけた。
３
時　場所　兵隊と橋が見えない
事件
　ウィスタンは本道を離れ森の中の細道を行く。先頭に立ち、エドウィンは口輪を取る。ベアトリスとアクセルは、いるの？いるよと唱和する。ベアトリスはウィスタンは役者だと言う。忙しい時に村を出た、ローソクを取り上げるなんて間違っている、帰ったらローソクがほしい、修道院で痛みのとり方を教えてもらえるかも知れないと言う。
４
時　場所　近道ー判断は難しい　真昼　本道に入る　歩きやすい
事件
　四人上機嫌で進む。慎重に前進した。
時　場所　空地
事件
　甲冑をまとって兜をかぶっていない騎士が名乗れと言う。馬が草を食んでいる。アクセルが旅人だと四人の紹介をする。騎士はパンがある食えとすすめる、ブリトン人でアーサー王の任務を果たそうとしていると言う。
　ベアトリスは修道院の賢者に会うと言うと、落馬のけがから痛み止めの世話になったと答える。
　ウィスタンは恐れる理由がないので偽りのしぐさを止める。王の用事で旅している、ガウェインか尋ねると、そうだアーサー王の甥で西国にいたが馬のホレスと旅をしていると答える。ウィストンがアクセルと会ったことがあるか聞くとないと答える。ウィストンはブレヌスの支配地で、兵隊が穀物や家畜を徴収しているから別人のふりをしてきたと言う。
時　場所　アーサー王崩御から何年も
事件
　アクセルは二人の話に安堵した。ガウェインは王はブリトン人とサクソン人に恒久の平和をもたらしたと言う。
時　場所　注意がほかにそれて
事件
　エドウィンが大声で叫ぶ。灰色の髪の兵士が尋ねたいことがあると言う。兵士は、サクソンの戦士がけがした少年を連れて村を出たという報告があったと言う、切っ先をウィスタンに向ける。馬が突進してくるのに気をとられる。ガウェインに組んで戦ってくれと頼むが、夫婦を守るためにいる、戦士は敵ではないと答える。ウィスタンは雌竜を殺すよう王から言われている、なぜブレヌスの敵になるのかと反論する。兵士は剣を頭上にかぶり突進した。ウィスタンは剣を一閃させた。
時　場所　死体

事件
　ガウェインは祈りの言葉をつぶやいた。アクセルは終わったと言った。エドウィンはじっと見つめていた。
時　場所　蛇
事件
　死体から這い出して来る。ウィスタンはブレヌスはこの国を征服し、サクソン人に戦いをしかける。クエリグが捕らえられブレヌス軍の戦力に加えられることを恐れている。ガウェインは敵軍にいる竜に向かったことがあるが、恐ろしいやつだと言う。
第二部
第六章
１
時　場所　修道院　階上の部屋　鳥
事件
　アクセルは地面と離れた所に眠れない。
時　場所　中庭
事件
　ウィスタンは薪を割る。
時　場所　午後
事件
　アクセルが外をのぞくと修道僧が数十人いる。
時　場所　食事
事件
　アクセルとベアトリスは食事するが、ウィスタンとエドウィンはいない。イラスムスがこんな時に客を迎えるとはと非難すると、ブライアン神父は体調がすぐれず、院長は会わせるなと命令したと言う。
時　場所　穴掘り
事件
　ウィスタンは死者の剣で穴を掘る。ガウェインは山賊にやられたことにする。雌竜は任せて帰途につけと言う。
時　場所　死者
事件
　アクセルは内臓の悪臭に離れ、ベアトリスは死に動揺している。ガウェインは腰まで地面に埋まっている。ウィスタンはひたすら掘り続けていた。
時　場所　橋の上
事件
　灰色の髪の兵士がベアトリスにやさしく話しかけた。彼女は親切な言葉を二つ三つかけ

られると世界への信頼を取り戻す。大きな痛手も受けず生き抜いてきた。
時　場所　薪割の音
事件
　ウィスタンは薪割を続ける。人の出入りを観察し、薪を届けながら見回るのだ。
時　場所　修道院の壁の上
事件
　アクセルは、ウィスタンに重要な訪問者が院長に会いに来ていると言う。ウィスタンはここは危険だ、馬房の背後で物音がした、到着後知られたくない訪問者が来た、少年に探って貰うことにした、うめき声、男の声がした。ここは修道院ではなく、兵の砦だ。
時　場所　中庭
事件
　戦いの時、全員が出てきて殺されていくのを見る。中庭で見物した。圧倒的多数の敵が攻める。最後には全員虐殺される敵を見てきた。事前の復讐。薪を抱えてうろついて、過去の痕跡を見つけた。二番目の門が破られても罠がかけられていた。
時　場所　傾斜地
事件
　三人が出た。ウィスタンはエドウィンを手元に置きたいと言う。東の沼沢地に連れて行く。
時　場所　木造小屋三軒　檻、鎖、手錠
事件
　ウィスタンはとらわれた人間を自然の残酷さにさらす道具だと言う。
時　場所　小道　狭い路地
事件
　僧が立っていた。修道院の方を指差した。誰にも見られたくなかった。三人を案内した。早く静かに進めと指示した。
時　場所　戸口　会議中　怒声　石造りの低い建物
２
時　場所　小さな部屋　ローソク　四人と修道僧
事件
　ジョナスはこの傷は昨日今日のものではないと言う。ベアトリスは許可が出るまで待つと言う。坊さんが連れて来てくれたと言う。
　ジョナスはニニアンが一人一人観察し報告してくれた、会う潮時だと思っていたと言う。ウィスタンはこの子の傷はきれい、助けを求めているのはベアトリスと言う。
　ジョナスはエドウィンの傷を見て、手当てを続ければ治る、ニニアン神父に塗り薬を用意させると言う。ベアトリスが霧のことを聞くと、ウィスタンは竜のクエリグだ、竜は修道院に守られている、修道僧が私の正体に気づけば兵隊を呼んで私を殺させると言う。
　ジョナスは真実だ、クエリグの息がこの地を満たし記憶を奪うと言う。なぜ急がない、な

ぜブレヌスに追われていると尋ねられ小さいころからの知り合いと答える。
時　場所　ジョナス神父の部屋
事件
　ウィスタンとエドウィンは出て行く。二人残った。神父はベアトリスを詳しく診察した。何の心配もなく息子を尋ねられる。霧の正体が分かって嬉しそうだと言う。前に道が開けたと言う。彼女は船頭の質問を恐れた。
第七章
時　場所　ジョナス神父の部屋
事件
　アクセルとベアトリスは目を覚ました。ブライアン神父が助けてあげたい、兵士が二、三十人いる、逃げるなら今、最初に下りる、つづいて来いと言う。
時　場所　中庭の奥
事件
　松明が動いている。
時　場所　石造りの塔
事件
　兵隊が集まっている。ブライアン神父は兵隊が踏み込み若いサクソン人二人を出せと言った。ウィスタンは逃げる機会をつくってくれている、下にトンネルがあって、地下から森へ抜けられると言う。
時　場所　四角い下り口
事件
　エドウィンは四角い闇に消えた。
時　場所　戸が閉まる
事件
　三人は立ち止まり、じっとした。アクセルは兵隊が入って来るから早くトンネルを隠したかった。
時　場所　ローソクに火
事件
　ガウェインが怖がらなくていいと言う。全員揃っているなと念を押す。アクセルはこんな所に隠れてと言う。ここには一匹の獣がいる。ニニアンがここに入れてくれた。
　ベアトリスが修道僧が私達の命をねらっていると聞くと、少年の命をねらっているのは確実と答える。僧たちに送り込まれた者がその獣によって死ぬ。
　ガウェインはこの剣で切り殺せないものはない、トンネルの保存状態はニニアンが保障してくれると言う。
時　場所　トンネルの中
事件

　ガウェイン、アクセル、ベアトリス、エドウィンの順で一列に進む。
時　場所　物音　獣の鳴き声　狼の遠吠え
事件
　四人の足取りは一層慎重になる。
時　場所　月の光　骨が厚く積み重なった床
事件
　アクセルはすごい数の人骨と言う。
時　場所　落とし格子
事件
　歩き続けるか、ロープを切るか、ロープを切ることにする。
時　場所　門落下
事件
　たくさんの頭蓋骨は獣が殺したのか？ガウェインはジョナスから院長のたくらみを聞き、ニニアンの手引きでトンネルに入り待っていたと説明する。アクセルは、こんな無垢な少年を殺すのかと言う。
時　場所　月の光
事件
　ガウェインは飛び出した獣に剣を振り下ろす。エドウィンは横にいた。獣はトンネルの暗闇の中へ走り去った。アクセルはまた門を落下させた。ガウェインは獣の頭を見て、ただの犬だと言った。
時　場所　巻き上げ機
事件
　四人はロープに端を巻き付け引き上げた。
時　場所　霊廟の二番目の部屋　獣の巣
事件
　ベアトリスはウィスタンが東国から来たサクソン人の戦士だと院長に話したのはガウェインと聞く。彼はなぜ蒸し返す、毛布も食物もない今、早く先へ急がねばならない。この近くに川がある。東へ流れている。船頭に頼めと言う。
第八章
時　場所　森
事件
　若い修道僧はやせたピクト人で、よくしゃべった。案内役だ。エドウィンはウィスタンの怪我はひどくないと言われ少し安心した。ジョナス神父はこの少年を桶屋の家まで連れて行け、誰にも見られないようにと指示した。
時　場所　修道院　大門　中庭　中央広場
事件

　エドウィンは走り続けた。
時　場所　古い名の塔　焼け焦げ　黒ずみ
事件
　エドウィンが確かめようと首を伸ばしかけた時、ニニアン神父が肩をつかんだ。兄さんも倒れているか聞くと首を振る。中庭から連れ出す。
時　場所　前日
事件
　エドウィンはウィスタンがここにいると誰が言うのか聞くとブレヌスは命令を出しているかもしれないと答える。
時　場所　古い塔の裏の納屋
事件
　ウィスタンは薪割を中断し、干し草の積み替え作業をしている。エドウィンに干し草の山に上り棒でつつき、木や鉄を除けと言う。
時　場所　夢の中
事件
　エドウィンは本当のお母さんに呼ばれたのか？なぜあの長いトンネルへ入ったのだろう。
時　場所　夏の終わり　夕方
事件
　十五、六人の少女が後手に縛られ仰向けに寝ている。エドウィンが助けてほしいか聞くとすぐ戻ってくる。ぶたれると言う。怖くない、助けてあげると言うといつも自分で逃げると言う。食べるものを探しに行った。縛られて置き去りにされた。横向きになったのでほどき始めた。半殺しにされる、行けと言う。怖くなくてもやられる。助けてくれた。
時　場所　夕暮れ前　その池
事件
　エドウィンは来てみた。少女が寝ていた場所は草が倒れたままだ。
時　場所　数週間
事件
　少女の面影がよみがえってくることが何度もあった。
時　場所　昼日中
事件
　地面を掘ったり、屋根修理の手伝いをしていると少女の面影がよみがえってくる。
時　場所　納屋
事件
　ウィスタンが入ってくる。二人はここにいる。
時　場所　古い塔の周り
事件

　ウィスタンは古い塔を気にしていた。薪を届ける時も塔の近くを通った。
時　場所　塔の中
事件
　濠の中に水はない。修道院は戦時にはサクソン人の祖先が築いた山砦だ。階段は塔のてっぺんまで続いている。ブリトン人が攻め込むと塔の中に誘い、薪に火をつけた。てっぺんから外へ飛び用意しておいた荷車に下りた。
時　場所　小川の緑
事件
　若い僧はジョナス神父は誰にも見られるなすぐに立てと言った。逃げられたのに戻ってくるなんてばかだと言った。
　ウィスタンは兵隊に追われて古い塔に逃げ込んだ。兵隊が松明を持ったまま逃げ回って転んで火がついた。逃げ出せたのは奇跡中の奇跡だ。
　ブレヌス神父は兵隊を送り出して復讐しようとする。事故のせいで兵隊は死んだ。ジョナス神父は最高の人、一番賢い。
第三部
ガウェインの追憶―その一
時　場所　山道
事件
　ガウェインは夫婦を救い、少年を救い、悪魔の犬を退治した。昨夜の奮闘の後、スタミナがない、小道を上がる。ウィスタンが殺されなくてほっとする。追っては皆殺しに焼かれた。
時　場所　次の峰　一休み
事件
　剣は悪魔犬のぬめりが残り悪臭がする。
時　場所　老いた女達十五人か二十人
事件
　女達は雌竜をさっさと殺してくれたら惨めにうろつかなくてすんだと言う。
時　場所　一人の若い娘　エドラ
事件
　エドラはサクソン人の領主を殺したい。母と姉妹にしたことは許せない。四人の同志と任務に向かう。
　ガウェインは四人の同志と任務に向かい、五人のうち二人が倒れた。娘は護衛二人を倒してサクソン領主の前に立った。男を倒したが鍬でちょんとつついた。
　アクセルが現れた。彼はサクソン人を血の海に沈めた。東から来て新しい村を作った。憎しみの連鎖は鍛えられ強化された。
　ガウェインは復讐への欲望は絶えない、悪の連鎖を終わらせる絶好の機会だと言う。
　ガウェインに妻はいない。最後まで忠実に義務を果たしてきた。クエリグはわれらを待っ

ていると言う。
第十章
時　場所　桶屋の小屋　狭く暗い
事件
　ウィスタンは熱が出た。馬の背に括りつけて運んでくれた。燃え盛る塔のてっぺんから下を見て荷車が来ていないと知った時、呪いたい気持ちになった。干し草の中に沈んだ。寝かされ僧に囲まれていた。
　エドウィンは老夫婦にくっついて修道院から逃げ出した。償う方はないと謝る。ウィスタンは勇気と戦士の魂がある、必要な技を教えると言う。
第十一章
時　場所　川　船小屋
事件
　アクセルは艀か小舟を貸してくれ、荷物を失い、銀貨も失っている。動物の毛皮を着ている男は、大麦を積むので乗れない、一つの籠に一人乗れると言う。ベアトリスは離れるのがいやと言う。男は籠二つをつないだ。
時　場所　流れ緩やか
事件
　ベアトリスは、息子はアクセルがいるところに戻りたくないと出て行ったと言う。アクセルは籠を小さな手漕ぎ舟につけた。乗っていた老婆が助けを頼んだ。彼はこの舟で二人一緒に下流へ行けるかも知れないと言う。乗り込んだ。
時　場所　生き物
事件
　生き物が水中から上がってくる。婆さんはやつらを追っ払おうと言う。アクセルは長柄の道具を振り下ろす。水中に飛び込み水草をかき分け泥を蹴散らして進んだ。籠を押して水中を進んだ。ベアトリスを持ち上げ、川岸を上って野原に移動した。草の上に座った。アクセルはベアトリスをおぶって行く。
第十二章
時　場所　崖
事件
　エドウィンは半分くたびれた。馬を山道脇の木につないで登り始めた。
時　場所　最後の岩　崖の上
事件
　ウィスタンはエドウィンを後手に縛る。ロープが役に立った。
時　場所　木立　松の木　オーク　楡　空地
事件
　中に入り竜の巣に違いないと思う。ロープをほどく。エドウィンは狩人はぼくだ、竜など

いないと言う。
時　場所　空地の中央に池　結氷
事件
　ウィスタンはこれでもまだ竜の巣ではないのかと言う。鬼は水を飲んでいた。二匹目三匹目もいた。エドウィンにロープを巻き付け見動きできない。
　雌竜の巣まで連れて行ってくれ、でもぼくはそこへ連れて行こうとしたのではない、母のところだ。
　連れて行った男たちを覚えているか？殺すことに慣れたブリトン人の男三人で、兵隊だった。五才で何もできなかった。すべてのブリトン人に憎しみを持ち続ける約束をしてほしい。約束すると答えるとほどいた。
第十三章
１
時　場所　二つの岩
事件
　アクセルとベラトリスは座っている。アクセルは川はたいして下れなかったと言う。
時　場所　遠く
事件
　ベラトリスは兵隊かと言う。あの娘の助けがなかったらどうなっていたか？
時　場所　その朝早く　小さな石造りの小屋
事件
　アクセルは道に迷った、火にあたりたいと言う。少女は二人を寄こしてと祈ったら来てくれた、火が燃えている、食べる物もある、山羊の世話があるので失礼すると言う。隣の村は遠いか？と言うとどの村へ行くにも遠いと答える。あの溝に何かあるかと聞くと何でもないと答える。
２
時　場所　山石
事件
　ベラトリスは借りたマントを巻きつけ戻ってきた。アクセルは、あの娘のもてなしには感謝する、二人の人生は幸せな結末に到る話だと言う。ベラトリスはあの子達と別れてから、わたしから離れて歩きたがっていると言う。アクセルは毛頭ないと答える。
３
時　場所　床の中央　火燃え上がる
事件
　ベラトリスは狭いベッドに残して出て行った夜のことを思い出すと言うと、アクセルは川の小妖精からは逃れたが、呪文がきいていてそんな夢を見るのではと言う。
時　場所　草に氷が張っている　囲いの中　山羊　溝

事件
　アクセルが家の方はと聞くと女の子は自分達だけと答える。ベラトリスが溝の中には何があると聞くと、一番の山羊が死んだと答える。
　アクセルはとんでもない大きさの山羊でもう一つの生き物は何だと思う。女の子は鬼は山羊を食べた。弱って来ている。二日たつが死なないと言う。
　女の子は山羊を雌竜に与える毒餌にする。鬼は知らずに食べてあたった。毒餌を毎日六回山羊に与えた。
時　場所　巨人のケルン
事件
　今朝二人が来た時、神様が送ってくれたと思った。親に忘れられた子供だ。一匹残された山羊を巨人のケルンに連れて行ってつないでおいて、これ以外父母に戻ってもらう方法がない。鬼でさえ死ぬから雌竜も死ぬかも知れない。アクセルが上に登るのは無理だと言うと、今度誰かが来るなんてことはないと言う。神に遣わされた人だ、散歩みたいで険しい道はない。
　ベアトリスは、巣の近くに毒入り山羊を用意しておくことは弱い二人でも倒せるかも知れない、倒せば霧はすぐ晴れる。神に導かれてここに来たと言う。
4
時　場所　双子岩
事件
　二人はさらに高く登った。アクセルはベアトリスに約束をもちかける。記憶が戻るとがっかりさせるものもあるかも知れない、わたしの思いを忘れないでわたしをそのまま心にとどめておいて。ベアトリスは約束する。
ガウェインの追想―その二（第十四章）
時　場所　風　嵐
事件
　ガウェインは、疲れた女が鞍を必要としている、同行させるのは正気の沙汰ではない、夫婦と山羊を残せない、クエリグのことは知る者に任せよと言う。五人のうち二人まで雌竜の前に倒れたと言う。
時　場所　空き地　池
事件
　この女も僧どもから救ってやった、わしに赤ん坊のことをくどくど言った。
　わしの軍馬にまたがっているのか、山羊に引かれて足取りを乱しているアクセルは何度も振り返る理由を感づいているのか？
時　場所　今朝早く　トンネル
事件
　アクセルは二人が同志だったと尋ねて来た。舟を見つけて川を下れと教えたのに、山の中

に残っている。
時　場所　巨人のケルン
事件
　まだ一マイルもある。体力があるうちに戻れ。山羊は引き受ける。約束の場所まで連れて行くと子供と約束した。山羊を置き、足がもつれないうちに山を下りる。
　アクセルはこのまま巨人のケルンに向かう。ウィスタンと少年がどこまで来てくれるか？
第四部
第十五章
１
時　場所　巨人のケルン　碑
事件
　山羊は半狂乱になって暴れた。アクセルは杭を打ち込もうと石で叩いた。ガウェインは妙に口数少なくなった。
　アクセルがウィスタンも修道院から脱出したか聞くとそうだと答える。ガウェインはアクセルに近寄り耳先に語りかけた。戦争、平和という議論から離れ良き妻にささげた。同じようにすべきだったかという思いが沸く。私はあの日アクセルと会っている。アクセルは馬を使わせてと頼む。ガウェインはサクソンの戦士がすぐに来ると言う。
　アクセルはあの日まで法は守られた、ガウェインは偉大な協定でよく保たれたが、それでも戦いは終わらなかった。
時　場所　戦士とサクソン人の少年
事件
　ウィスタンは夫婦に息子の村にいるものと思っていたと言う。ガウェインは毒を仕込んだ山羊で雌竜を退治したいと言う。アクセルは少年を危険から遠ざけると言うとウィスタンもその通り、同じ杭につながせると答える。アクセルはガウェインは雌竜の護衛役ではないかと言う。ガウェインは、その通り守り手と言う。
時　場所　雌竜の居場所
事件
　ガウェインは穴の底に眠っていると案内する。ベアトリスが毒で戦うことをすすめるとウィスタンは毒を使いたくない、半日待てないと反対する。全員で行く。
２
時　場所　騎士　戦士　アクセル　ベアトリス
事件
　アクセルが戻ろうと言うとベアトリスはこのまま行こう、霧が晴れるのを恐れるのは私だと言う。
時　場所　道の前方

事件
　二人は二人を待つ。
時　場所　四人
事件
　無言のうちに進んだ。
時　場所　急坂から台地
事件
　歩きやすい。
時　場所　穴の縁
事件
　ガウェインは側面を上がり小石の並びに達する。
時　場所　穴　広く浅い　山査子
事件
　竜はやせ衰えている。水生爬虫類だ。瞼の開閉と背骨の上下運動で生きていることが分かる。二人は病気か毒にやられていると言う。
時　場所　当時
事件
　クエリグは強大で、荒ぶる竜だった。ガウェインは寿命を全うさせたい、ウィスタンは悪事を忘れさせ、行ったものにも罰を与えるとはどんな神かと言う。
　ガウェインはウィスタンの後から塚を下り、階段を離れた。ガウェインはホレスを山の下まで連れて行ってくれ、鞍の錫や硬貨を使えと言う。アクセルはありがたく受ける。
　ガウェインとウィスタンは剣をそれぞれの都合で抜いてよいという合意にする。
時　場所　決定的瞬間
事件
　二人は固く抱き合い、二本の剣が一本に融合した。ガウェインは倒れた。ウィスタンはしばらく見下ろしていた。アクセルは雌竜と隔てるものはないと言う。
時　場所　塚
事件
　ウィスタンは死神の柔らかい足音を背後に聞いた。石段を上がった。
　ベアトリスは、早く退治して死ぬのを見るまで安心できないと言う。
　ウィスタンは子供の頃罪のない人が戦いの悲惨から守られると話したがブリトン人がいる。復讐したい男の一人だ。
　ベアトリスはこの二人の間にどんないさかいがあるのかと言う。アクセルは復讐したいなら簡単という。
時　場所　穴の底
事件

　ウィスタンの剣は低い弧を描いた。頭は床の上に落ち山査子の木にひっかかった。
３
時　場所　穴
事件
　ウィスタンは意気消沈していた。竜退治は来るべき征服に道を開くためだ、西に向かって進む軍勢はサクソン人の村を吸収する、忘れられていた巨人が動き出す、家を焼き子供を殺す、一つ一つサクソンの国になると言う。
　アクセルは記憶を取り戻したくてイエリグの死を望んだ。古い憎しみも国中に広がると言う。ウィスタンは、今後この国がどうなるか一端を知った、逃げる時間はあると言う。
第十六章
時　場所　杭
事件
　ベアトリスはエドウィンの手をほどく。エドウィンは復讐にはまだ間に合う。母を連れて行った奴らに借りを返す。
　エドウィンはウィスタンとの約束を思い出す。
第十七章
時　場所　木の下
事件
　二人は馬に乗ってやって来た。ベアトリスは息子は島に住んでいる、入江がないか聞いてみると言う。船頭は入り江まで運ぶとベアクロスを抱えた。
時　場所　丘の道
事件
　アクセルはついて来た。
時　場所　粗末な覆いの下
事件
　ベアトリスを横たえた。アクセルは世話を焼く。二人は島を見続ける。
　アクセルは船頭に、錫と硬貨を鞍につけてあると言うと後で頂くと答える。ベリクラスは強い愛情で結ばれた男女は島に疲れると聞いた。船頭は二人は一緒に暮らせると言う。
　息子は髭もないうちにいなくなった、二人のとげとげしさを見て出て行った、疲労で息子は倒れたと二人は同じことを船頭に話した。
　船頭は一人ずつ渡すからアクセルに岸に戻るように言った。ベアトリスは戻ってくるのを待てとアクセルに言う。
時　場所　入り江の冬日
事件
　アクセルは二人の言うことを聞く。水の中を歩いて喋る。船頭の横をアクセルは通りながら振り返らない。アクセルは先へ進んでいく。

２　舞台

アーサー王（六世紀）亡き後、六、七世紀のイングランドに展開する。ローマ帝国の遺跡が点在する。

３　人物

（1)アクセルとベアトリス

アクセルとベアトリスはブリテン人の老人だ。斜面に深い横穴を掘って住んでいる。ここには六十人いる。

息子が出て行って二人だけで住んでいる。いなくなってから村の外縁に住まわされ、どの焚火からも遠く、夜のローソクも禁止された生活を強いられている。息子がいれば働き手になる。いなければ老人二人は村の負担になる。その仕打ちを村人は強いる。嫉妬だ。

村を黒いぼろの女が通り過ぎ、旅の女が四日間村をさまよった。旅人に触れ、息子のいるところに旅に出ようと思った。その後、ノラが作ったローソクを持ってきてくれた。鍛冶屋の女房は禁じられていると取り上げた。二人はこれを契機に本気で出ようと決意する。

春の五日間旅に出る。村も人手不足にはならない。司祭には言って行く。子供の頃なら見える気がする。手触りは残っている。早く来てほしいと思っている。一緒に暮らしたがらないわけがない。ベアトリスは蜂蜜や錫の交換で何度も行っている所を通る。

二人は村の共有物を隣人と交渉し借りて行く。向かう土地は広がっていて、地図も磁石もない。今のように生垣、畑、道、草地と明確な区切りを通るわけではないので、道を間違えることも多かった。

悪魔や悪鬼は列の最後尾を狙うと信じられていたので、ベアトリスが前、アクセルが後ろになった。時折いるの？いるよとかけ声をかけあってはぐれないように進んだ。

巨人の埋葬塚は墓を踏みつけないように道を外れて行った。ローマ人が残した長い道では、母、三人の子、ロバ追い少年、役者に会った。

ローマ時代の豪荘な屋敷で雨宿りをする。老婆は兎をナイフで殺す。血で汚れる。船頭は休日をここで過ごす。彼は舟には一度に一人しか乗せられない、二人に一度にわたるのはきわめて強い愛情で結ばれていることが条件でこの二人は絆が弱過ぎた。

あの島は一人で生活する。老婆は夫だけ舟に乗せ自分を取り残したと言う。

ベアトリスが愛情の絆の強さを知るためどんな質問をするのか聞くと、一番大切に思っている記憶を話して貰うと答える。

脇道に入り大木の下で雨宿りする。ベアトリスは怖がるがアクセルは何の恐れもないと励ます。

サクソン人の村に入る。ベアトリスが、長老の一人がブリトン人、薬に詳しい女の人に会いたいと言う。サクソン人は解放感を優先した。ベアトリスは薬師に診て貰う。女だけの問題とアクセルを残す。

アイバーは自分の家に二人を泊める。一軒の大きな家で離れた所にある。村人の騒ぎを恥ずかしいと言う。ベアトリスは薬師から賢い老修道僧のことを聞いた。アクセルは小道を行

くとジョイナスという賢人に会えると聞いた。クエリグは雌竜のことか聞く。アイバーは道はやさしくない、クエリグの国、旅人を襲う噂は別の獣か山賊の仕業と説明する。アーサー王からの生き残りで、王に退治を命じられた騎士がいると話す。

出立の際、けがをした少年エドウィンを連れて行ってくれとアイバーに頼まれる。

サクソン人のウィスタンはエドウィンの心配をする。アクセルに途中まで同道する、アイバーに打ち明け納屋からこっそり連れ出す。

本道を行くと橋にブリトン人でブレヌスの兵隊がいる。ウィスタンの策略で突破しようとする。なんとか言い逃れ先へ進む。

ベアトリスとアクセルはいるの？いるよのかけ声で歩く。ウィストンは兵隊に髪の毛を引っ張られても地を出さず振舞った。

本道を行く。歩き易い。四人は上機嫌で慎重に前進した。

空き地に騎士がいた。アクセルはいつわりの一行の説明をし、通して貰おうとする。

騎士はアーサー王の任務で旅を続けている。パンがあるとすすめる。ベアトリスが修道院の賢者に会うと言うと、落馬のけがから修道院の痛み止めで世話になったと話す。

ウィスタンはこのあたりを通っているガウェインかと尋ねると、そうだ、馬のホレスと気の向く旅をしていると答える。ウィスタンは王の用事を済ませ知らせを持ち帰らねばならないと言う。アクセルを知らないか、年齢は近いと言うが、二人は否定する。

灰色の髪の兵士がやって来て、再度一行を追及する。調べは済んでいるはずだと言うが聞かない。ウィスタンは剣を抜いて、突進する兵士を切り倒す。山賊に襲われた、墓の場所を兵士に教えてやることで片をつける。

修道院に着く。修道僧は四十人以上いた。アクセルとベアトリスは食事をしたが、エドウィンはいなかった。ウィスタンは中庭で薪割をしている。

一行を快く思わない僧もいる。ベアトリスがジョナス神父に会いたいと申し入れると、ブライアン神父は、体調がすぐれず院長は会わせるなと命令した。ウィスタンは修道院を偵察し、危険な場所だと言う。アクセルも重要な訪問者が院長に会いに来ていると言う。

樫、手錠等を見て修道院に必要とは不思議で不安になる。老僧は監視役として一行を探っている。

ジョナス神父はエドウィンの傷の具合を見、塗り薬を与える。ベアトリスを詳しく診察し何の心配もなく息子を尋ねられると言う。ニニアンに調べさせていた。クエリグの息がこの地を満たし、記憶を奪っている。早くたてと忠告する。

ブライアン神父は兵隊が二、三十人来た。逃げるなら今だ。若いサクソン人が二人いる、出せと言った。ウィスタンは逃げる機会を作っている。下にトンネルがあって地下から森へに抜けられると教えた。

アクセル、ベアトリス、ガウェイン、エドウィンは列になってトンネルを進む。ガウェインは大きな犬を剣で切り倒す。川を下って息子の村に行こうとする。舟は大麦を積むから乗れない。やむなく籠をつないで一人ずつ乗る。ベアトリスは離れ離れはいやだと言うがやむ

をえない。アクセルは籠を押して水中を進み、ベアトリスを持ち上げ川岸を上って下ろし草の上に座った。

下って来た川を見るが大して下れなかった。小さな小屋に入り、娘の世話になる。娘は山羊に毒を与え、クリエグの餌になれば死ぬと言う。巨人のケルンに山羊を連れて行ってつないでくれと頼む。

二人は山羊を連れて行って杭を立て紐を結びつける。

ウィスタンとガウェインがやって来て、穴に退治に行く。ガウェインはウィスタンに負けて死ぬ。ウィスタンはクリエグを倒す。

アクセルとベアトリスはホレスに乗って下る。入り江に出て息子のいる島に渡ろうとする。船頭は一人ずつしか移せないと言う。ベアトリスが渡り、船頭はアクセルを迎えに来るが、アクセルは水中を歩いて来る。

アクセルとベアトリスは仲のいい夫婦だ。絶えず互いに存在を確認し合う。動きを見ていて思いやる。手を貸す。手を取り分かり合えるようになった。いつも一緒にいないと一緒でないといけない。いられない。いつも一緒にいて相手を確認し合う。意見が違ってもどちらかに合わせる。決裂しない、喧嘩にならない。

作者の作品に男女の恋愛が描かれたものはない。お互いに愛し合うものはない。熱い思いもなく、熱い思いに結ばれることもない。最中の確執も、後の確執もない。愛憎地獄は描かれない。

思い合う二人は本作品に始めて登場する。老後になって分かり合い思い合うことができるようになった二人が描かれる。

二人は息子に会いに行く。息子は二人のいさかいに家を出て行った。そのままにしておいて、今になって会いに行こうとする。村で余計者扱いされ数日の旅に出ようとする。一時的にせよ村を出ようとする。村を捨てて息子に会いに行こうとする。現状を受け入れられず脱け出す。その息子は病で死んでいるかも知れない。あるいは生きていると思い再会しようとする。いない息子の存在は不明だ。出て行ったきりでその後のことは何も分からない。が、二人にとっては間違いなく過去に存在していた息子だ。いた息子をある所にいると思ってそこに向かって行く。二人は真剣に息子探しに行く。

幾多の困難に耐え、越えて進む。老人に可能な行動をして進んでいく。困難に向かい困難を克服して進む。危険な目に合い人の助けを受けようやくたどり着く。着いた入江の先の島に息子はいると思う。川で籠に一人ずつ乗った。ここでは船に一人ずつ乗る。ベアトリスが移り、アクセルは船に乗らない。二人のここまでの旅は常に思いやり助け合ってなされた。それが最後のここで壊れる。旅は壊れる。あの行程には、行程における営みは何だったのか？

二つの民族の激しい殺戮のなかを老夫婦は旅をした。脆弱な二人が危険極まりない行程を体を酷使して旅をした。そして二人はただ一回の離れ離れになる。村から出、息子は見つからず、別れる。出奔した二人は終点で一人一人になる。

（2）ウィスタンとガウェイン

ウィスタン、アクセルとベアトリスがサクソンの村に泊まった晩、ウィスタンは二匹の怪物を倒す。この夜二人と知り合い、エドウィンを連れ二人の旅に加わる。

手柄を立てたと称えると、運がよかった、勇敢な同志がいたからだと謙虚だ。

サクソン人でブリトン人とも交わった。沼沢地に住んでいる。サクソンの仲間にはからかわれている。剣技はブリトン人に教わった。兵士達に村から連れていかれ、小さい頃から訓練させられ戦士になった。ブリトン人の兵士に戦いを学んだ。

エドウィンが傷を負い、悪魔と差別されている。村から連れ出したい、遠くの村に連れて行って貰いたい、山の向こうまで同行すると頼む。

エドウィンは強く、胆力の持ち主で役に立つ。ブリトン人のキリスト教の村は少年には理想的だ。

アイバーにも打ち明け納屋からこっそり連れ出す。南門の前で待たせ、馬と少年を連れて行く。旅仲間でいられるのもよかった。

エドウィンの傷の様子を調べた。秘密を守るのは二人だけだ、清潔にしてひっかくなと注意する。エドウィンを選んだ。

橋で兵隊が見張っている。ブリトン人ブレヌスの兵隊だ。四人の偽装を手配し通り抜けようとする。武器を持って指揮官から離れている兵隊は油断できない。唖者として振舞う。兵士に疑われ髪をつかまれひっぱられる。抵抗せずけたけた笑った。策士家で演技派だ。

空地に馬といる騎士がガウェインと判断する。

アクセルを知っているか尋ねる。会ったことがないと答える。二人はお互いに認めない。

ブレヌスの支配地で兵隊が略奪している、その調査をしている。雌竜をを殺すよう王から言われ、この任務を果たそうとしている。

灰色の髪の兵士が疑いを持ってやって来る。問答は果てない。ウィスタンは剣を一閃させ倒す。埒があかなければ実力行使に出る。

修道院に着くと中庭で薪割に精を出す。不審に思われず、出入りを観察し、薪を届けながら周囲の様子を探る。ここは危険だと判断する。厩の背後に音がする。別の訪問者を知られたくないようだ。うめき声、痛みに苦しむ男の声がする。

ここは修道院ではなく、兵の砦、サクソン人の砦だ。二つ目の門『水門』で皆殺しにする。戦いは全員が出てきて殺されていくのを見ている。

一人だけ告げ口をした人がいる。ブレヌスは命令を出しているかも知れない。薪割を中断し、干し草の積み替えも始める。

古い塔を気にしていた。中を調べ、戦中にサクソンの祖先が築いた山砦だと言う。ブリトン人が攻め込むと塔の中に導き入れ、薪、干し草に火をつけ焼き殺した。誘い込むと上へ上へ誘い、てっぺんから外へ飛び降りた。荷車に干し草を積み込みそこに飛び降りて逃げた。ウィスタンは荷車が遅れ、負傷する。

ウィスタンは塔を兵士たちを攻撃するために使う。少人数で多勢の数に対抗するため作

戦を立てた。戦士だ。
　雌竜退治にエドウィンに案内して貰う。エドウィンの才能を評価し利用する。誰のこともよくその人を見抜く。
　雌竜退治はガウェインと共同してやる。毒は使わない。二人は固く抱き合い、二本の剣が一本に融合した。がウェインは倒れた。ウィスタンは剣を手にして巣穴を下り続けた。剣は低い弧を描いた。竜の頭は床に落下し、山査子の木にひっかかった。
　ウィスタンは出て来たが意気消沈していた。王が竜退治を命じたのは来るべき征服に道を開くためだ。西に向かって進む運勢はサクソン人の村を吸収する。地中に葬られ忘れられていた巨人が動き出す。家を焼き、死体と悪臭で川はあふれる。サクソン軍は勢力を拡大する。エドウィンには倒れた騎士と倒れた雌竜を見せておきたい。
　ガウェインは冷静で懸命な戦士だ。状況をよく判断し、適切に行動する。剣の腕前は超一流だ。人を良く見抜いている。
　空地に甲冑をつけ、兜がない騎士が立っている。馬は草を食んでいる。アクセル達四人がやって来る。
　アーサー王の名のもとに旅を続けている。アーサー王の甥だ。数年前まで西国にいたが馬のホレスと気の向く旅をしている。アクセルを知っているか尋ねられ会ったことはないと答える。
　王は公明正大だった。灰色の髪の兵士が何者かと聞くのに、無礼な扱いはするな、アーサー王の騎士にそういう口をきていいかと怒る。兵士に助太刀をこわれると、老いぼれ一人が加勢してもどうにもならないと断る。クエリグ退治は任務だ、おびき出す計画がある。この、数年、クエリグが鳴りをひそめている。敵軍にいる竜に向かったことがあるが恐ろしかった。
　殺害した兵士たちを埋めてやろうとする。山賊にやられたことにする。
　トンネルから脱走しようとする時、中心になる。ガウェイン、アクセル、ベリクラス、エドウィンの順に一列になり、脱出しようとトンネルを進む。
　オオカミの遠吠えに剣を抜く。修道院に来た時、さほど遅れてはいなかった。ジョナス神父から院長のもくろみを聞き、ニニアンの手引きでトンネルに入り待っていた。
　獣はトンネルの中を飛び出し、ガウェインは剣を振りおらした。獣の頭がころがっていた。ただの犬だ。
　ベラクレス、ガウェインは東国から来たサクソンの戦士と院長に話したのはガウェインかと言うと蒸し返すなと答える。
　ガウェインは夫婦を救い、少年を救い、悪魔の犬を退治した。
　アーサー王に五人の一人として選ばれ任務に出かけた。二人失ったが勝利は我々のもので、サクソン人はなぜ戦いつづける。最後まで忠実に義務を果たしたよき騎士だった。
　クエリグが我らを待っている。アクセルと知り合いと認める。アクセルは王を捨てよき妻に捧げた。自分は王に尽くした。
　夫婦を山羊と残せない。クエリグのことは任せる。雌竜の護衛役と言われるとそうだと認

める。穴の底に眠っている。ウィスタンと固く抱き合い、二本の剣が一本に融合した。ガウェインは倒れた。

王に尽くす一途な騎士だ。結婚も考えたが仕事を選ぶ。人とのやり取りで失言をしても気づかない。弱りかけるクエリグに情を示す。

剣の腕前もそれほどではない。

（３）エドウィン

サクソンの村で、ウィスタンが怪物を二匹殺した時、傷を負う。異教徒は悪鬼にかまれたものは悪鬼に変わると信じている。エドウィンは殺されることになる。ウィスタンが連れ出し、アクセル、ベアトリスに連れて行って貰う。退治する現場にいてエドウィンは平然としていた。

兵隊を埋葬するとき、無表情で男を見続ける。穴を平らな石で掘る。

ウィスタンがけがをした時、命にかかわらないと言う。干し草を棒でつつき異物が入っていないか調べる。これから起こる対決と関係があると思う。

とらわれている少女にやさしく接し、縄をほどく。連中に半殺しにされると言われても頓着しない。

塔でウィスタンが戦う時、干し草を積んだ荷車を眠りほうけて遅れあわてて運ぶ。

雌竜の気配を感じられる。ブレヌスとの間に遺恨がある。

冷静で勘が鋭く、予想、予見ができる。肝が座っている。勇気がある。ウィスタンはこの少年にひかれ、訓練しようと思う。自分と同じだと思う。